

※「鳥」は「鳥からす」と間違えやすいので注意が必要です。

十二支  
月日（初午とは二月の最初の午の日。）

十干  
タイトル

古文書の表題の多くは、タイトルの他、文書の作成年月日等が記されています。元号以外に、現在では馴染みのない十干十二支の表記もあります。

干支順位表

① きのえね 甲子 コウシ (カツシ)	② きのとうし 乙丑 イチチュウ	③ ひのえとら 丙寅 ヘイイン	④ ひのとう 丁卯 テイボウ	⑤ つちのえたつ 戊辰 ボシン	⑥ つちのとみ 己巳 キシ	⑦ かのえうま 庚午 コウゴ	⑧ かのとひつじ 辛未 シンビ	⑨ みずのえさる 壬申 ジンシン	⑩ みずのととり 癸酉 キユウ
⑪ きのえいぬ 甲戌 コウジュツ	⑫ きのとい 乙亥 イツガイ	⑬ ひのえね 丙子 ヘイシ	⑭ ひのとうし 丁丑 テイチュウ	⑮ つちのえとら 戊寅 ボイン	⑯ つちのとう 己卯 キボウ	⑰ かのえたつ 庚辰 コウシン	⑱ かのとみ 辛巳 シンシ	⑲ みずのえうま 壬午 ジンゴ	⑳ みずのとひつじ 癸未 キビ
㉑ きのえさる 甲申 コウシン	㉒ きのととり 乙酉 イツユウ	㉓ ひのえいぬ 丙戌 ヘイジュツ	㉔ ひのとい 丁亥 テイガイ	㉕ つちのえね 戊子 ボシ	㉖ つちのとうし 己丑 キチュウ	㉗ かのえとら 庚寅 コウイン	㉘ かのとう 辛卯 シンボウ	㉙ みずのえたつ 壬辰 ジンシン	㉚ みずのとみ 癸巳 キシ
㉛ きのえうま 甲午 コウゴ	㉜ きのとひつじ 乙未 イツビ	㉝ ひのえさる 丙申 ヘイシン	㉞ ひのととり 丁酉 テイユウ	㉟ つちのえいぬ 戊戌 ボジュツ	㊱ つちのとい 己亥 キガイ	㊲ かのえね 庚子 コウシ	㊳ かのとうし 辛丑 シンチュウ	㊴ みずのえとら 壬寅 ジンイン	㊵ みずのとう 癸卯 キボウ
㊶ きのえたつ 甲辰 コウシン	㊷ きのとみ 乙巳 イツシ	㊸ ひのえうま 丙午 ヘイゴ	㊹ ひのとひつじ 丁未 テイビ	㊺ つちのえさる 戊申 ボシン	㊻ つちのととり 己酉 キユウ	㊼ かのえいぬ 庚戌 コウジュツ	㊽ かのとい 辛亥 シンガイ	㊾ みずのえね 壬子 ジンシ	㊿ みずのとうし 癸丑 キチュウ
㊿ きのえとら 甲寅 コウイン	㊿ きのとう 乙卯 イツボウ	㊿ ひのえたつ 丙辰 ヘイシン	㊿ ひのとみ 丁巳 テイシ	㊿ つちのえうま 戊午 ボゴ	㊿ つちのとひつじ 己未 キビ	㊿ かのえさる 庚申 コウシン	㊿ かのととり 辛酉 シンユウ	㊿ みずのえいぬ 壬戌 ジンジュツ	㊿ みずのとい 癸亥 キガイ

『角川日本史辞典』朝尾直弘 他／角川書店

## 干支とは

十干と十二支を組み合わせたもので、全部で六十通りある。日本では十干は陰陽五行説による「木・火・土・金・水」を「兄・弟」に配して「木の兄」を「甲(きのえ)」、「木の弟」を「乙(きのと)」とする。干支は古代より年や日を表すものとして数字の代わりに用いられた。60歳を還暦というが、これは干支が一巡して自分の生年の干支に「暦が還った」ことを意味している。

②


寛文九年	巳
酉	二月
	検地
武蔵国多摩郡山口領小川村新田	
	水帳
式冊之内	

これは比較的読み易かったのではないのでしょうか。「蔵」「検」「冊」は現在私たちが使用している常用漢字と多少形が違いますね。特に「冊」は全く形が違いますが、当時は「式」の文字が一般的でした。

③



宝暦六年  
 村鑑帳  
 子ノ五月 多摩郡  
 小川村

「鏡」は難しかったでしょうか。「金」扁がくずれると  になります。

「五」  も特徴的なくずし字ですが、このままの形で覚えましょう。

④

天明弍寅年十一月  
 寅御年貢大概皆済帳  
 多摩郡  
 小川村

「明」は傍の「月」がくずれています。「月」の典型的なくずし方  なので、このまま覚えましょう。「元号を読んでみよう」②「明」は、傍が「る」のようになって  とも酷似しています。このように、くずし

字では種類の違う部首がよく似ている場合がありますので、注意が必要です。

天明七年

武蔵国多摩郡小川村五人組御仕置帳

未 三月

「国」構えがかなり省略され、「い」~~ん~~の様になります。④で出てきた「郡」は読め  
ましたか。「置」~~置~~のくずし字も難しいですがこの形が典型的なくずし方です。